

# 『鈴木家文書目録』 刊行にあたって

## 刊行に至る経緯

鈴木家文書は、江戸時代柴崎村の名主を代々勤めた旧家に保管されていた文書です。今回目録化して掲載した資料は、鈴木家先代（第15代）当主の喬氏から立川市歴史民俗資料館へ寄託（昭和30年代寄託・991点）および寄贈（平成20年6月寄贈・5300点）されたものです。鈴木家は江戸時代だけでなく、明治時代以降も引き続き行政に関わってきたことから、資料の点数は膨大であり、同館で部分的には整理したものの大半は手つかずの状態で保管されていました。そこで立川市史編さん近世部会では、来るべき資料編や通史編の編さん執筆に向けて、未整理分の目録作成が急務と考え、これを機会に文書目録を刊行する運びとなったのです。

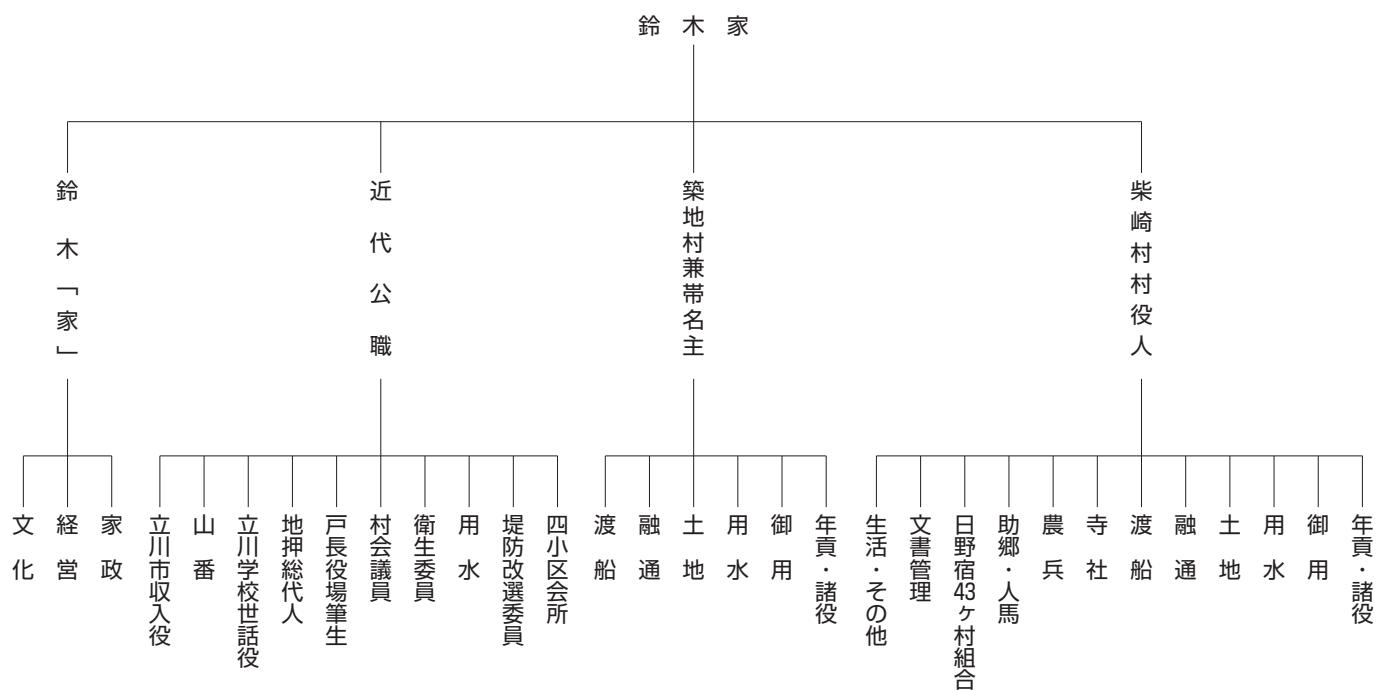
鈴木家の由緒

戦国期、鈴木家の初代当主繁宗は、八王子城主北条氏照の家臣でしたが、天正18（1590）年の豊臣秀吉による小田原征伐後、浪人となり、柴崎村に土着して里長となり、江戸時代になると名主を勤めることになりました。江戸時代の柴崎村の名主は年番制であり、鈴木家や中嶋家、加藤家、小川家などが交替で勤めていました。

## 鈴木家文書の構造

『鈴木家文書目録』は、ほしい資料を検索しやすいうように下図のような項目に編成されています。この構造図は寄贈分の編成です。寄託分については、すでに整理済だったため、当時の編成をそのまま用いています。

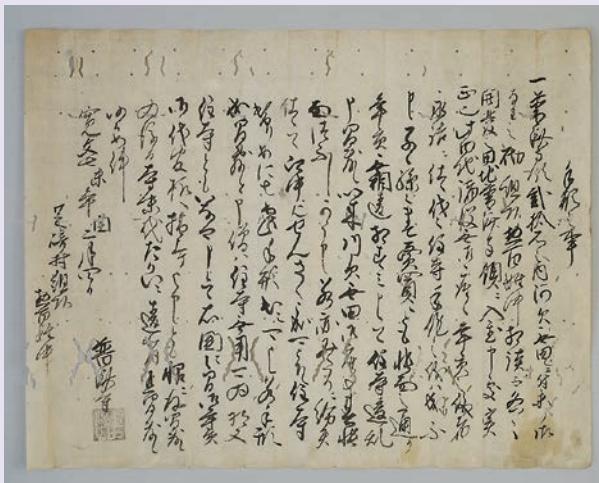
「柴崎村村役人」と「築地村兼帶名主」には、江戸時代に名主等を勤めた際に取り扱った文書が、「近代公職」には、明治期以降、戸長や村会議員などを勤めた際の公的文書が、「鈴木「家」」には、家としての鈴木家の活動がわかる文書が分類されています。



## 鈴木家文書の構造図（寄贈分）

## 鈴木家の活動

目録作成を通じて明らかになった鈴木家の活動についてご紹介します。鈴木家は、村役人として、また家として、普濟寺や諏訪神社などの運用にも関わっていました。なかでも鈴木家の菩提寺である普濟寺との関係は深く、同寺の領地存続にも尽力しています。たとえば、写真①にある文書は、先に示した「鈴木家文書の構造図」のうち、「柴崎村村役人」のなかの「寺社」の項目に編成されているものです。それによると、普濟寺領のうちの荒地を、村中で相談の上、田地として整えることを取り決めた旨が書かれています。



写真① 寛文7（1667）年閏2月 普濟寺領関係約定手形



鈴木家10代当主重信の肖像画（写真②）と俳句集（写真③）



また、「鈴木「家」」のなかの「文化」項目に編成された文書からは、鈴木家が、多摩地域の文化活動にも積極的に参加していたことがわかります。たとえば、10代当主重信（写真②）は、多摩の俳壇に身を置いており、多くの句集に句を寄せています。重信が死去すると、文化12（1815）年には彼の追悼句集「不知火集」（写真③）が出版されました。同集には柴崎村は勿論、多摩地域一帯の俳人が句を寄せており、交流の広さがうかがえます。

## 資料編・通史編にむけて

文書目録ができたことにより、資料編・通史編のための調査を進めやすくなりました。たとえば、江戸時代の村政について、年貢はどれくらいだったのか、どんな事件があったのかなどを調査したい場合には、必要な資料を目録から検索することができるのです。

ただし、今回刊行する鈴木家だけで江戸時代の村のありさまを論ずることはできません。今後もより多くの古文書を集めることが課題といえます。そのためにも市民の皆さまからの資料に関する情報提供を切にお待ちしている次第です。

### 『新編立川市史調査報告書 近世編1 鈴木家文書目録』刊行のお知らせ

立川市役所の市政情報コーナーや歴史民俗資料館などで頒布を予定しています。

判型：A4判

頁数：約250頁

予価：1000円（変更になる場合があります）

平成30年4月頒布開始予定